

営農情報 第5号

平成27年6月5日
アルプス農協管内農業技術者協議会

**中干しは、米の品質向上にとって、たいへん重要な技術です。
田植1ヶ月後頃が中干し開始の目安ですので、遅れずに実施しましょう！**

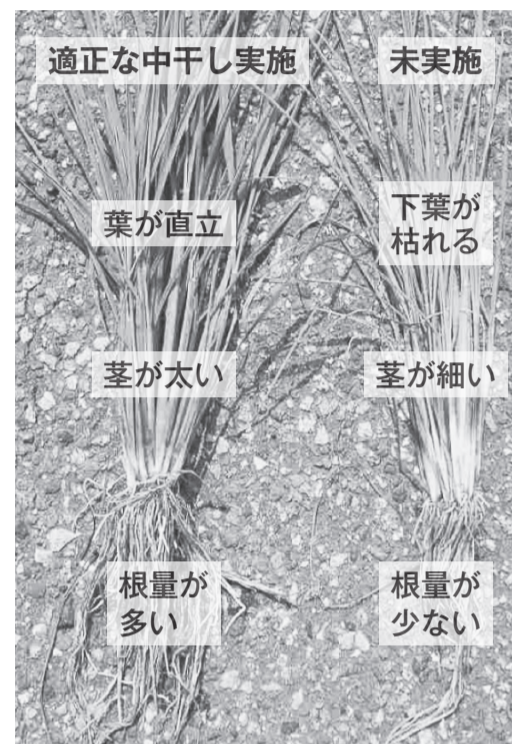
1 中干し

6月に入ると急激に分げつが増加します。
適期に適切な中干しを行い、無駄な茎数の増加を抑え、
稲体の健全化を図り、適正な生育量へ誘導しましょう。
なお、まだ溝掘りしていない場合は、早急に行いましょう。

《中干しの効果》

- ① 発根促進や稲体の健全化
- ② 土壌内の有毒ガス除去
- ③ 過剰な分げつの発生抑制
- ④ 適正な葉色への誘導
- ⑤ 地耐力の確保（収穫作業等を円滑にする）

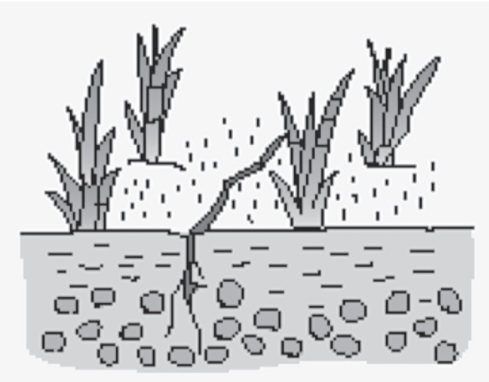
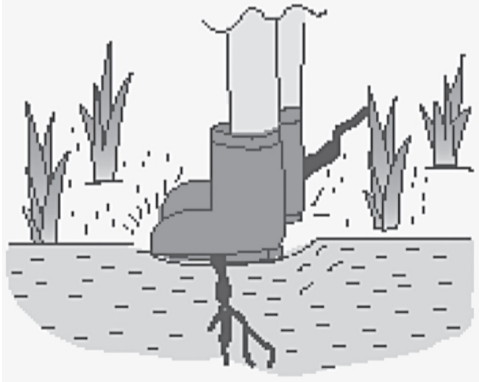
中干しの有無による稲の姿



■中干し開始の目安と方法

- 目安： 田植えの1ヶ月後頃から中干しを開始する。
- 方法： 中干しは一回仕上げとせず、その後の「間断かん水」と併せて、足跡の深さ3cm程度の硬さになるよう、土壌条件や天候に応じて中干しの程度を調整しましょう。
なお、強すぎる中干しは、分げつの発生を抑制するばかりでなく、急激な葉色低下と穂数不足を招くので注意が必要です。

■ほ場条件と中干しの程度

ほ場条件	乾きやすいほ場（砂質田・黒ボク等）	乾きにくいほ場（半湿田・粘質田）
中干しの程度	2～3日間隔で弱めに干す	5～7日間隔で強めに干す
中干し後の状態	 <p>・弱いヒビが入る</p>	 <p>・足が少し沈む程度の強いヒビ</p>

2 間断かん水

中干し後から幼穂形成期までは、湛水と落水を繰り返す『間断かん水』の水管理で、根に新鮮な水と空気を交互に供給しましょう。

《間断かん水管理の例》

乾きやすいほ場	乾きにくいほ場
湛水状態：1日	湛水状態：1日
↓	↓
落水状態：2～3日	落水状態：4～5日

3 後期除草剤

- (1) 雑草の発生状況を確認し、散布が遅れないようにしましょう。
- (2) 除草剤によって対象雑草や使用時期、使用量が違うので注意しましょう。
- (3) 散布後5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水しないてください。

除草剤名	対象雑草	10aあたり 使用量	使用時期	使用 回数	使用上の注意点
フォローアップ 1キロ粒剤	水田1年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ 他	1kg	移植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫60日前まで)	1回	・イネ5葉期以前の使用は避ける。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態 で散布する。
バサグラン粒剤	イネ科以外の 水田1年生雑草 ホタルイ ミスガヤツリ 他	3～4kg	移植後15～50日 (収穫60日前まで)	1回	・晴天日を選んで散布。 ・落水状態で散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。
クリンチャー 1キロ粒剤	ノビエのみ	1kg	移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫30日前まで)	2回 以内	・ノビエ専用剤で残効性がない。 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態 で散布する。
		1.5kg	移植後25日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)		
ヒエクリーン 1キロ粒剤		1kg	移植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	・ノビエ専用剤 ・効果を高めるため、5cm程度の湛水状態 で散布する。
クリンチャー バスME液剤	ノビエ、ホタルイ、 ウリカワ、ミスガヤツリ、 オモダカ 他	1,000ml 希釈水量 70～100ℓ	移植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回	・落水状態で散布する。 ・散布後3～4日間は入水・落水しない。 ・展着剤は加用しない。

※平成27年度農作物病害虫・雑草防除指針(県農林水産部発行)に基づき作成しました。

4 農薬散布上の注意事項

梅雨以降、雑草が繁茂し病害虫の発生量が多くなる季節です。
農薬を散布する際は、下記のことには注意して農薬散布作業を
行いましょう。

【農薬使用に当たって】

(1) 作物に登録のある農薬を使用しましょう。

- ・栽培中の農作物への使用が認められていること(登録)を確認しましょう。
- ・農薬のラベルに表示された使用方法を守りましょう。

(2) 周辺農作物等への飛散(ドリフト)の低減に心がけましょう。

- ・風の弱いときに風向きに気をつけて散布しましょう。
- ・散布の方向や位置に気をつけて散布しましょう。
- ・周辺に収穫直前の農作物がある場合は特に飛散を少なくするよう心がけましょう。

※ 農薬を散布する際は、事前に周辺住民に対して十分な周知を行いましょう。

(3) 農薬の使用状況をきちんと記録しましょう。

- ・農薬等の生産資材を適正に使用していることが確認でき、販売先や消費者の信頼を得るために有効です。

※※ 6月15日～9月14日は『平成27年度農薬危害防止運動』期間です ※※



★ケーブルテレビでも営農情報を放送 JAアルプスのホームページから常時視聴できます。

『Net 3パラダイス』(デジタル091ch)の中で『農業ファイル』を放送中(放送時間6:45頃、10:45頃、17:15頃、20:45頃)

★熱中症や農業機械操作中の事故防止、農薬の適正使用や生産履歴の記帳など、GAP(ギャップ)に取り組み、「安全・安心」な米づくりを進めましょう。